

研究者の素顔や生き方、いかがでしたか？
リボンでつながる先輩たちのメッセージから
研究者それぞれの考えや想いが
伝わってきたのではと思います。
この青いリボンが、あなたの未来につながることを願って…

未来に 繋がる 青いリボンの エトセトラ

京都大学男女共同参画推進センター



Vol.3

京都大学

男女共同参画推進本部（男女共同参画推進センター）／学術研究支援室

—— 京都大学を目指すあなたへ ——
研究者からの言葉
それは未来につながるメッセージ



Girls, be Ambitious!



稲葉 カヨ

副学長
男女共同参画・国際・広報担当理事
男女共同参画推進センター長
生命科学研究所教授

奈良女子大学理学部卒業。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学理学部助教授（女性初）、同大学院理学研究科助教授を経て、同生命科学研究所教授に就任。生命科学研究所長（女性初）を務めた。米国ロックフェラー大学連携教授を併任。免疫システムにおける樹状細胞の主要な役割の解明に貢献し、2014年「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を受賞。



これからの学生に望まれるのは、challenge(挑戦)とresponsibility(責任)。responsibilityは、respond(応えること)とability(能力)が組み合わさった言葉で、つまり、「期待に応える能力」という意味です。

みなさんが、(大学に)入学できた、(会社に)就職できたという事は、その学校や会社があなたに期待していることの表れ。それらの期待に応える努力をして、ぜひ、いろんなことに挑戦してください。

みなさんが進んでいく進路や場所、また年齢や立場によって、それぞれ期待される事柄や相手は違います。また、誰もがすべての期待に応えられるわけではありません。でも、誰かから期待されると、頑張る力がわいてくるものです。それを原動力のひとつにして、自分が置かれた場所で、いつも周りの期待に応える能力を磨き続けることが大切です。

人間・環境学研究所 准教授 船曳 康子	p. 3
教育学研究科 准教授 西岡 加名恵	p. 4
生命科学研究所 准教授 大澤 志津江	p. 5
人文科学研究所 助教 小川 佐和子	p. 6
人文科学研究所 准教授 石井 美保	p. 7
理学研究科 准教授 市川(近藤) 温子	p. 8
研究者たちの キーアイテム	p. 9
野生動物研究センター 教授 村山 美穂	p. 11
農学研究科 助教 中谷 加奈	p. 12
文学研究科 准教授 平川 佳世	p. 13
工学研究科 助教 伊庭 千恵美	p. 14
人間・環境学研究所 教授 水野眞理 水野尚之	p. 15
学部生・大学院生への インタビュー	p. 17
女性研究者からの メッセージ	p. 19
京都大学のイベント	p. 21



研究テーマ:メンタルヘルス国際比較、発達障害の社会支援、行動・認知・脳科学に基づいた自閉症のメカニズム解明



アメリカ留学中のシティオブホープ
メディカルセンターという
病院での見聞が、研究に大きな影響を与えた



人間・環境学研究科
准教授
船曳 康子

京都大学医学部卒業
▼
医学部附属病院 研修医
▼
京都市立病院 研修医
▼
京都大学大学院医学研究科
▼
カリフォルニア工科大学 リサーチフェロー
▼
京都大学大学院医学研究科 研究員・特任助手
▼
日本学術振興会特別研究員 RPD (京都大学)
▼
医学部附属病院 精神科神経科 助教
▼
大学院人間・環境学研究科 准教授

大学時代を過ごした地塩寮。
ここでの出会いが
自分の枠を広げてくれた



研究テーマ:教育方法学。カリキュラム設計とパフォーマンス評価



京都大学教育学部卒業
▼
大学院教育学研究科修士課程
▼
バーミンガム大学大学院教育学研究科博士課程
▼
鳴門教育大学 講師
▼
京都大学大学院教育学研究科 准教授

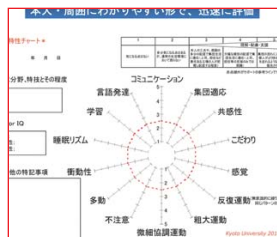
教育学研究科 准教授
西岡 加名恵

子どものころに関わり 理解しあえる世の中に

現在の研究は、アメリカ留学中の体験が大きく影響しています。それは、一度にたくさんの人を救えるような、画期的な研究が行われているのを見たこと。そして、テレビの幼児番組にハンディキャップのある子どもたちが毎日のように出演するのを見ていたことです。アメリカではそういう子どもたちも、自然に社会で受け入れられているようだけれど、日本はそうではなさそう。何とかならないかと思いました。

私は、「偏見をなくそう」と言うだけよりも、小さいころから自然に伝えていった方が大人にも早く伝わるだろうと考えました。そして研究の力でエビデンスを持って伝え、そのシステムを構築すれば、一度にたくさんの人助けになるのではと。特に自閉症や発達障害など、見てわからない部分で困っている人たちをサポートするため、その人の生まれ持った性格、「変わりにくい部分」の度合いと要支援度を示す評価スケールを整えました。

今後は、発達のかたよりに加え、いろいろな病気やハンディキャップをかかえた人たちにとって、過ごしやすい地域になるよう、少しでも貢献したいと考えています。一人でも多くの人が生きやすくなるように。



人の精神状態を「変わりがやすい」部分と「変わりにくい」部分に分け、それぞれの評価スケールを2本立てで整備。今後はこのスケールを使って、医療と支援センターと生活の現場をつなげていきたい。



『理解をもたらすカリキュラム設計』(ウィギンズ、マクタイ著/アメリカ)を翻訳。日本では「逆向き設計」として紹介。10年続く京大教育学研究科主催の教員研修「E. FORUM」には、全国から毎年約100人の先生が参加。

生徒が楽しみ、成長してくれることが 研究を続ける喜びです

学校現場の先生方と一緒に、生徒の思考力や深い理解につながるような教育方法の開発に取り組んでいます。生徒自身が学びを改善し、先生方も実践を振り返って指導の改善に役立てられるような評価方法を広めたいと思っています。提供したアイデアを実践して下さった先生方から、生徒の反応や変化を聞くことが喜びです。たとえば「勉強がおもしろくない、やりたくない」と思っていた生徒が、「これならちょっとやってみようか」とか「今までとは学び方が変わった」と言ってくれるのを聞くと、やりがいを感じます。

研究に必要なのは、ちゃんと自分がやりたいことを見定めること。社会貢献したいと思って研究してはいますが、根っここの部分で自分自身がやりたい仕事であるかどうかを自問しています。恩師や信頼のおける仲間たち、学校現場の先生方と対話することも大事にしています。京都大学の教育学部は、「そもそも教育とは何か」というところから考えられるのが魅力。「学校こそが教育問題の原因だ」という発想すらある中で、「でも私は学校にこだわりたい」という思いを確かめながら研究しています。

研究テーマ:細胞間コミュニケーションを介した組織成長制御の解析



「研究を仕事に」と
考えるようになったのは、
大学時代の恩師の存在が大きい



生命科学研究所
准教授

大澤 志津江

東北大学理学部卒業
↓
大阪大学大学院医学研究科修士課程
↓
東京大学大学院薬学研究所博士課程
↓
神戸大学 GCOE 研究員・
日本学術振興会特別研究員 SPD
↓
京都大学大学院生命科学研究所 講師
(兼任:大学院薬学研究科 講師)
↓
大学院生命科学研究所 准教授
(兼任:大学院薬学研究科 准教授)

テーマへの愛着を持ち オリジナリティを意識して研究

学部時代の恩師は、毎朝、誰よりも早く研究室に来て、普段から学生に実験の様子を尋ね、定年間近でも科学者としての夢を楽しそうに語る先生でした。その姿を見て、研究者になりたいと考えはじめました。細胞が死ぬときに自分の死を隣の細胞に知らせて増殖を促す信号を送ると知ったのは、修士・博士課程のころ。細胞同士のコミュニケーションに興味を湧き、研究テーマに選びました。

研究では、顕微鏡を通して見える実際の現象を大事にして、何事もそこを起点に考えるようにしています。ある現象の動画撮影に成功し、アメリカの学会で発表したとき、動画を見せた瞬間に会場が沸き、あとで沢山の人から“Good talk !! ”(いい発表だったね)と声をかけられました。自分がおもしろいと感じた情報を、いろんな人と共有できたことがうれしかった。論文が9回連続で審査に落ちたときは精神的にこたえましたが、それでも研究を続けてこられた原動力は、研究テーマへの愛着だと思います。

将来は、自分独自の研究を発信できる研究室を持ち、楽しく研究を進めつつ、後輩を育てていきたいです。



研究対象はショウジョウバエ。幼虫期の組織から翅/肢へと形作られる過程を顕微鏡で観察する。



次の世代に研究の世界を伝えたくて、数名の若手研究者と「萌える生物学」という取り組みを企画。

大学の授業でイタリアの無声映画を見て、
主演のスター女優に魅了されて…



研究テーマ:19世紀末~20世紀初頭にかけての映画と芸術の交流



早稲田大学第一文学部卒業
↓
同大学院文学研究科修士・博士課程
(日本学術振興会 特別研究員 DC)
↓
日本学術振興会特別研究員 PD
(東京大学)
↓
チューリッヒ大学 客員研究員
↓
京都大学人文科学研究所 助教

人文科学研究所 助教

小川 佐和子



映画の研究とアーカイブ活動を バランスよく続けるのが理想

高校時代から映画や芝居を見るのが大好きで、それにかかわる仕事の中で、自分に向いているのは研究者かなと思っていました。研究対象を映画にした主な理由は、美術史を学んでいた学部時代に、授業である映画に出会ったこと。監督の演出と主演女優に魅了されたのです。映画史は、美術史に比べると学問としての歴史が浅く、まだ研究されていないことも多いので、好きな分野で新しい見解を発表できるとも考えました。

イタリアで開かれる復元映画のお祭り「ボローニャ映画祭」には毎年参加します。8日間で150本近い無声映画を朝から夜中まで見続けるのは“苦行”といえますが、新しく復元された映画や、映画について語り合える人たちとの出会いが楽しくて、研究を続ける活力になっています。古い時代の映画フィルムは素材が不安定で、きちんと復元・保存しないと劣化も早いので、研究対象であるフィルムを守り、それを上映会などで一般の人々に知ってもらうアーカイブ活動も大切。研究とアーカイブ活動をバランスよく続けることが、映画研究者としての責任だと感じています。



無声映画には、専用に作曲された音楽伴奏や弁士が付くこともあり、そうした当時の上映環境を上映会で復元することもある。日本映画や大衆演劇の研究、国内外で映画を紹介する活動にも取り組みたい。『映画の胎動』(人文書院)は、論文をまとめた初めての著書。

研究テーマ：南インドの神霊祭祀と土地制度、開発と環境運動の関係



海外での最初のフィールドワークは、
アフリカ・タンザニアでの調査



人文科学研究所
准教授

石井 美保

北海道文学部卒業
京都大学大学院人間・
環境学研究科修士 博士課程
ガーナ共和国ガーナ大学 客員研究員
日本学術振興会特別研究員 DC2・PD
アムステルダム大学 客員研究員
一橋大学 専任講師 准教授
京都大学人文科学研究所 准教授

人類学は生活がまるごと調査。 感じとったことが研究のベースに

初めての海外でのフィールドワークは、修士課程のとき。アフリカのタンザニアで、ラストファアライと呼ばれる都市出稼ぎ民の宗教運動について調査しました。彼らと共に生活を送っていると、学問的研究よりも生活自体がおもしろいと感じました。博士課程ではガーナで精霊の司祭の社に下宿し、精霊祭祀や土地問題、民族間の関係について調査しました。そこでは、私たち日本人からみれば不思議な行為のように思われる妖術や呪術が、実は土地をめぐる争いや民族間の対立といった、根深い歴史的問題につながっているというローカルな論理が見えてきて、このことについてまとめたいと思うようになりました。

人類学のフィールドワークは、生活がまるごと調査のようなもの。生活の中で自分が感じとったことが、そのまま研究の重要なベースになります。現地の人びとのいろんな駆け引きや問題がつながりあって、日常生活を織りなす絵ができていますが、それは、現地の人びと自身も意識していない、隠れた論理のようなもの。今まで見えてこなかったその絵が、ふとしたきっかけで、パズルのピースがそろそろように見えてきたときはとてもワクワクしますし、それが研究のおもしろさだと感じています。



フィールドワークでは野帳にメモをとり、絵を描く。写真よりも自分の手で描く方が記憶に残りやすい。2008年以降は南インドで、ブータ祭祀と呼ばれる憑依(ひょうい)を伴う神霊祭祀について調査している。

研究はまず実験装置を
作る場所から始まる。
研究室にはさまざまな工具が並ぶ

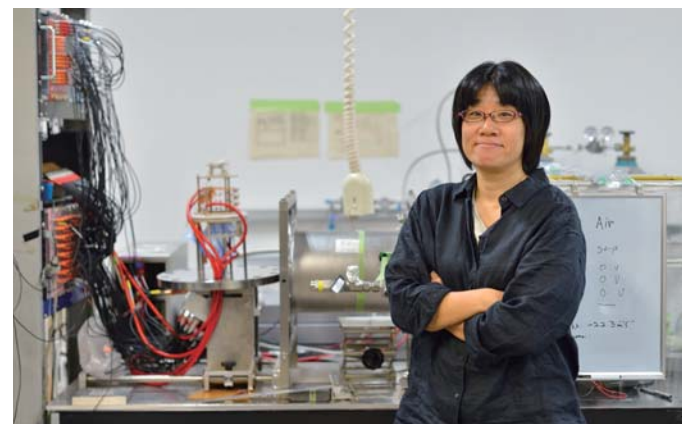


研究テーマ：加速器を使ったニュートリノ振動実験T2K

京都大学理学部卒業
大学院理学研究科修士・博士課程
高エネルギー加速器研究機構 助手
京都大学大学院理学研究科 准教授

理学研究科 准教授

市川(近藤) 温子

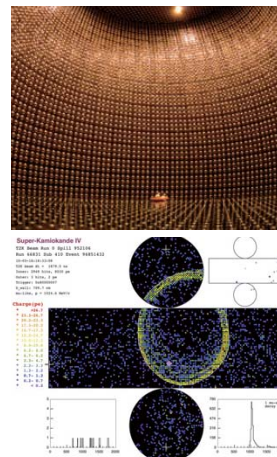


何年もかけて完成した装置を 動かした瞬間はいつも感動



素粒子物理学実験というのは、みんなで一から作って一つの目標を達成する、多人数の共同研究です。実験装置の設計から作り上げるまでに、何年もかかります。設計からかかわっていたニュートリノ施設の電磁ホーンの開発では、試作機を作るのに7年かかりました。ホーンに流す電流の強さを徐々に上げていき、目標の320kAの電流が流れたときには、鳥肌が立つほど感動しました。実験全体の装置の開発、建設には数百人がかかわるのですが、さらに3年ほどかかってすべての装置の設置が完了し、ビームが出た瞬間にはみんな興奮しました。そこからやっと、実験が始めるのです。この研究のいいところは、実験の成果が出る前でも、ただ装置が完成し、動いただけで非常に大きく感激できることです。

研究を続ける上で大事にしているのは、分からないことを分けるまで頑張ること。分からないことは人に聞くし、分けるまで一生懸命考え、調べることを大事にしています。研究を始めたころは、失敗が伝わったけれど、今は失敗しても「よし、次は…」と頑張れば、最後には楽しめるということも分かってきました。



© The T2K Collaboration 2013.
<http://t2k-experiment.org/ja/>

T2K 実験は、茨城県東海村の施設で人工的に作ったニュートリノを、300 km離れた岐阜県の巨大実験施設・スーパーカミオカンデまで飛ばす。装置の設計・開発からかわり設置完了まで9年かかった。

研究者たちの キーアイテム

研究の合間にほっと一息つけたり、
気分転換になったり、
心のよりどころであったり…。
新しい発想はこんなところから
生まれるのかもしれない。



茶道を習いはじめた。 村山 美穂
外国の人にも喜ばれるので、
ガーナ出張にも茶道具一揃え。



二人の娘たちとの時間が大事。
海外へは娘の学校の休みに
合わせて一緒に。 石井 美保



海外のチョコレートは、小川 佐和子
おいしくて、菓子箱の
デザインもかわいい♪



研究所のある
茨城県東海村の
のどかな
田園風景に癒される。 市川(近藤)温子



3歳から続けるヴァイオリン。
リサイタルやコンサートで演奏も。 中谷 加奈



ネコが好きなので、
ネコグッズがいろいろ。

西岡 加名恵



最近テニスを始めた。 大澤 志津江
身体を動かし、すっきりした頭で
研究のことを考えられるのもいい。



トルコやインドで買った 伊庭 千恵美
お気に入りのクッションを、
研究室の休憩スペースに。



研究テーマ：系統や血縁関係、個性など、
生物多様性の保全に向けた遺伝情報の研究



グラスカッターという食用ネズミの
家畜化プロジェクトをアフリカで推進中



野生動物研究センター
教授
村山 美穂
京都大学理学部卒業
大学院理学研究科修士・博士課程
日本学術振興会特別研究員 DC(京都大学)
畜産技術協会附属動物遺伝研究所 研究員
岐阜大学 助手・准教授
京都大学野生動物研究センター 教授

初めて開発した土石流シミュレータ「Kanako」
自分の名前から命名



京都大学農学部卒業
大学院農学研究科修士・博士課程
日本学術振興会特別研究員 PD
(京都大学)
大学院農学研究科 助教
農学研究科 助教
中谷 加奈



研究テーマ：土石流の数値シミュレーション・水理実験

新しい分野が生まれる きっかけになる研究をしたい

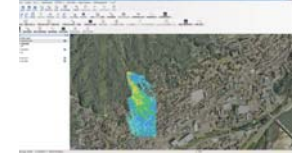
野生動物の糞や羽から DNAを取り出して個体差のある部分を調べ、その集団の多様性や血縁関係を調べています。特に行動や性格に関係する遺伝子に興味を持って研究しています。動物によっては、おとなしいか攻撃的かなどの個性が、ある程度、遺伝子配列から判断できるため、交配するペアの相性や、ストレスへの耐性など、繁殖や飼育の情報として役立ちます。

私が大学院でサルの研究を始めたころは、行動や社会性に直接関係する遺伝子を調べたいと言っても、「できるわけがない」と言われたし、遺伝子研究と社会的な研究が同じ土俵で議論されることはほとんどありませんでした。今は、遺伝子から行動や社会を見る専門領域もありますし、生物を多角的に見る学際研究も一般的になりました。

これまで研究対象やテーマを何度か変えてきましたが、研究テーマは、自分の持っている知識や技術と、今その分野で求められている解決課題とを勘案して選ぶことを心がけています。将来は、新分野や新概念が生まれるきっかけになるような研究がしたいと考えています。



野生動物研究センターには、他大学や海外から多くの研究者や学生が来て研究している。それぞれ扱う動物種は異なるが、みな遺伝子や多様性を研究しているので、相互作用でますます研究が発展する。



土石流の流動・氾濫・堆積過程の実験、数値シミュレーション、災害発生時には現地調査を実施。バージョンアップした「Hyper Kanako」は、国土地理院が公開する地形データを読み込める。

実験や現場から得た知見を 災害被害の軽減に役立てたい

卒業研究のとき、指導教官の勧めで土石流シミュレータを開発しました。それまでの土石流シミュレータは、専門家など一部の人のみしか使えず、プログラムごとに仕様が違っていました。そこで、同一条件で誰がやっても同じ答えが出る、電卓のようなものがあればと考えてできたのが「Kanako」です。

画面上で地形の縦断面と平面図が出るので、マウスを動かして地形を上下させたり、砂防ダムを置いて、その位置や高さを変えたりできます。画面上で行ったことがすぐに反映されて、視覚的に確認できるので、現場で砂防の設計をする人や、避難について住民に説明をする行政の人たちも使うことができます。一方、流木や大きな礫が入ったり、泥状の土石流についてはまだわかっていないことが多いので、実験や現場からの知見を得て、「Kanako」に反映させたいと考えています。

土石流による被害を軽減するために、土砂災害のことを多くの人に知ってもらうことが最終目標です。構造物による対策とともに、どこに住めばより安全か、家の中でも垂直避難できることや避難の仕方などを伝えていくことも大事だと思っています。

研究テーマ:西洋美術史。専門は15~16世紀の北方ヨーロッパ美術



イタリアで初めて見たヨーロッパ美術が、研究の原点に



文学研究科 准教授
平川 佳世

京都大学文学部史学科卒業
文学部哲学科卒業
大学院文学研究科修士課程・博士後期課程
(日本芸術振興会特別研究員 DC)
近畿大学芸芸学部 講師・助教、准教授
京都大学大学院文学研究科 准教授

「やってみれば、何でもおもしろい」と言う
ポジティブな先生に導かれて研究を始めた



京都大学工学部卒業
大学院工学研究科修士課程
北海道立北方建築総合研究所 研究職員
(大学院工学研究科博士後期課程在籍)
北海道立総合研究機構
(北方建築総合研究所) 研究主任
京都大学大学院工学研究科 助教

工学研究科 助教
伊庭 千恵美

研究テーマ:住宅・建築の温熱環境と省エネルギー。建築外装の実環境下での劣化対策



何年やってもやりつくせない。 それは幸せで楽しいこと

現在の研究テーマを選んだのは、就職後たまたま出かけたイタリア旅行で、初めて見たヨーロッパ美術に衝撃を受けたことがきっかけです。それまではまったく興味もなく、キリスト教やギリシャ神話の知識もないため、何が描いてあるのかもわからず、知らないことばかりでした。その後仕事を辞め、「知らないことを知ろう」と思い、美術館の学芸員を目指して哲学科に入学し直しました。古い時代の美術が好きで、イタリアの中世美術やドイツのルネサンス美術、留学先のウィーンの美術館や素描版画館でコレクションの調査と、ずっと研究を続けているうちに今に至るという感じです。

美術館の収納庫で調査していたとき、ある有名画家の絵の裏側に、別の有名画家の作品が隠れているのを発見したこともありました。中には“語りたくなるような”美術作品があって、そんな素材に出合ったときには、どんどんイメージがわいてきます。

研究に必要なのは、情熱を持ち続けること、自分が納得すること。何年研究していても、やりつくした感じがしません。それはとても幸せで楽しいことだと思っています。



カメラ、双眼鏡、単眼鏡、ルーペ、巻尺、手袋など、美術品調査の7つ道具がいつもバッグに。西洋美術史の英語版紀要を作成中。京都大学をアジアの中のヨーロッパ美術研究の拠点にしたい。



カッパドキアの遺跡保存には、土木、保存科学、土壌物理などの専門家とともに、多角的に調査研究を行っている。大学の屋上ではいぶし瓦、釉薬瓦、スレートの3種の屋根の温度や湿度の違いを計測。

予想外の結果をおもしろがる ポジティブさが必要

思ったような結果が出なかったときに、それをおもしろがるポジティブさ、何にでも興味を持つことが、研究には必要だと思います。学生のとき、研究室の先生がとてもポジティブで、「興味がなくても、やってみれば何でもおもしろいものだ」と言われ、実際に研究を始めてみると、楽しかったのを覚えています。実験で失敗して落ち込んでいるときには、「これはおもしろい。二度とこんな実験できないぞ。なぜこうなったかを考えなさい」と言われました。

現在は、京町家などの住宅の省エネや温熱環境の研究と、瓦や外壁といった建築外装材料の劣化のメカニズム研究を主に行っています。後者の研究では、トルコのカッパドキアの遺跡の一つである岩窟教会の保存に関わっています。研究のおもしろさは、予想していたこととは違う結果や発見があること。例えばトルコの遺跡調査では、岩壁の劣化は凍結によるものという前提で調べていくうちに、雨水による浸食の影響の方が大きいかもしれないということがわかってきました。

発見や予想外の結果を楽しみながら、自分の興味ある研究を続け、それが誰かの役に立つことができればと思います。



ルネサンス期イギリス文学と、近現代アメリカ小説。
研究テーマは異なるけれど、
お互いの原稿を一番に見せたり、
研究の話を始めたら止まらない、「戦友」のような二人です。

—— パートナーが研究者であるメリットは？

眞理●論文や口頭発表の草稿を、互いに読んでフィードバックしあえることです。本人のふとした盲点を補ったり、分野が違うからこそ視点を提供できる。本当に恵まれています。
尚之●家族だから、他人には角が立ちそうな意見も、率直に言えますね。僕たちは、主観的であり客観的でもある論文の第一査読者。パートナーが研究者であることの最大のメリットだと思います。

これぞ研究者夫婦。戦友みたいな感じ



—— お互いの尊敬しているところは？

眞理●日本におけるヘンリー・ジェイズ研究は、従来、その作品(小説)の研究に留まっていた。でも彼は、ヘンリー・ジェイズの世界全体を捉えようと、ジェイズの兄、父、祖父、子孫がどうい人だったかという縦方向や、同時代の別の作家も視野にいた横方向の調査も進めています。時間軸、時代背景を含めて包括的にアプローチできる能力がすごい。

尚之●そう言ってもらえるのはうれしいですね。一方、僕が舌を巻くのは彼女のリサーチ能力の高さ。17世紀以降にイギリスで書かれた書物の情報なら、世界のどんな図書館の奥に眠っている情報でも、パソコン検索でどんどん見つけ出してくる。知的好奇心と探求能力の賜物だと思いますが、とにかく検索がうまい。文科系の場合、これは絶対に必要な能力なんです。

眞理●そういう作業が好きなんです(笑)。知りたい情報が得られないと、がぜん闘志がわいて徹底的に調べてしまう。そうすると、今まで知らなかった事実やおもしろいデータが芋ヅル式に次つぎと出てきて、さらに調べてしまう…。

尚之●デジタル化された書誌データを引き出すノウハウがあれば、地球の裏側にある図書館の情報さえ自分の書齋で入手できる。彼女はその作業を毎日やっています。「こんな本が見つかった」「あの作品の情報を入手できた」など、研究者仲間としての会話は、何年やっても飽きません。戦友みたいな感じです。

—— 今後の目標を教えてください

眞理●共著やエッセイはすでに出版しましたが、できるだけ早く研究をまとめた単著を出版したいと思っています。
尚之●僕は、これからもヘンリー・ジェイズに関する書籍を書き続けたい。それによって、「ヘンリー・ジェイズといえば京都大学」となり、次世代も集まってくれたらうれしい。これは僕の使命だと思っています。

定年退職しても、二人でのんびり過ごすことはないでしょうね。お互い使命感に燃えて、彼女はパソコンで世界を探索しつつ、僕は翻訳や執筆をしていると思います。

水野 眞理●大学院人間・環境学研究科 教授

京都大学文学部卒業。ケント大学修士課程に留学。京都大学大学院文学研究科博士後期課程を修了。大谷大学特別研究員、京都大学教養部助教授、総合人間学部助教授、大学院人間・環境学研究科助教授、准教授を経て、現職。イギリスの近代文学と政治や文化の関連について研究。

水野 尚之●大学院人間・環境学研究科 教授

京都大学文学部卒業。ニューヨーク市立大学修士課程に留学。京都大学大学院文学研究科博士後期課程を修了。京都大学文学部助手、梅花女子大学講師、京都大学教養部助教授を経て、現職。アメリカ文学、特にヘンリー・ジェイズについて研究。

ふたり
wa
研究者

お互いのコンプレックスが原動力

—— 研究者になるきっかけは？

尚之●もともと研究者を志していて、20歳ぐらいのとき、青木次生先生が翻訳されたヘンリー・ジェイズ作品を読んで「これだ!」と感じ、研究テーマを決めました。

僕と彼女は同級生で、偶然、同じ英会話学校に通っていました。能力ごとにクラス分けされていて、彼女は一番上のクラス、僕は一番下のクラス。劣等感を感じていましたね。

眞理●劣等感は、むしろ私のほう。英語は大好きだけど、文学少女ではない私は、大学4年生のときに卒論テーマを決められず、まったく卒論を書けませんでした。このままでは胸を張って文学部出身だとは言えないと、両親に頭を下げて大学院に進学させてもらったんです。

そんな私には、早くからヘンリー・ジェイズに照準を定めて研究を始めている彼が、追いつけない存在に見えました。また、この作家は大人の恋愛をよく描くので、彼もその作品のように大人なんだろうなあと。お互いのコンプレックスが、研究の原動力になったのかもしれない。

人間・環境学研究科 教授

水野 眞理

人間・環境学研究科 教授

水野 尚之



研究者への道を 歩み出したばかりの 先輩たちに、 インタビュー！

大学院進学を決めた学部生と、
修士課程、博士課程で学ぶ
大学院生それぞれに、
研究や京都大学で学ぶ
魅力について聞いてみました。



私たちは いまこんなテーマの 研究をしています

吉村 瑤子

磁力ではなく電流によって磁石の向きを変えることで、これまでにない新しい記録装置を作る研究。電流によってS極とN極の境界である磁壁が、どのように移動するかを研究している。

木村 迪子

細胞の中に存在するタンパク質を網羅的に解析する、プロテオミクスの研究。どんなタンパク質がどれだけの量、どのような状態で存在しているのかを、ゲノム規模で解析するための技術の開発。

文山 知紗

卒論研究のテーマは「なぐり書き」。何の気なしに書いた「ぐちゃぐちゃしたもの」にも何らかの意味があるのではないかと思います。研究を始めた。大学生を対象に調査し、データを集約中。

理学研究科
博士課程3年

吉村 瑤子

自分で限界を決めずに、
興味があることは
何でも挑戦してほしい



デバイス応用を目指した
磁壁の移動に関する研究で、
2015年度「ロレアル・ユネスコ
女性科学者日本奨励賞」を受賞。

京都大学で学ぶ魅力は？

もともと新しい世界に飛び込むことを億劫に感じる方だったのですが、共同研究や学会参加を通して他大学の人や、国際会議で海外の人も知り合えて、視野が広がりました。留学にも乗り気ではなかったのに、「こんなチャンスはない。行かせるなら、私も行こう」という気持ちになりました。モチベーションの高い学生が多いので、「私もやらなきゃ」と思えます。

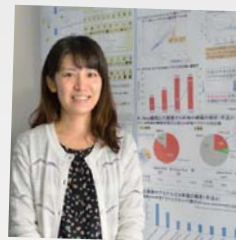
研究の魅力は何ですか？

一つは、新しい発見があることです。実験をして、世界で初めて新しい発見をするというのは魅力的。それが論文になって、自分の名前が歴史に残るというのもうれしいです。
二つ目は、人とかかわり。研究は一人ではたすら追究していくというイメージがありますが、そうではありません。分からなかったり、つまずいたりしたら、研究室のメンバーや先生に相談して進めていきます。みんなと話している時間も魅力です。
三つ目は、研究の舞台が世界であること。世界中で活躍できるし、研究を通して海外の友人も作れます。そして、研究というのは科学の発展だけではなく、みんなの日常生活を豊かにできる可能性があるというのも、やりがいの一つです。

薬学研究科
修士課程2年

木村 迪子

一生懸命
取り組んだ過程は、
その後の人生に
必ずプラスになります



京都大学で学ぶ魅力は？

一番の魅力は人です。教員も学生も個性豊かな人が多く、いろんな価値観に出合えます。自分を持っている、大切にしているものを持っている人が多いです。

研究で大切にしていることは？

粘り強く取り組むこと。思うような結果が出なくても、簡単にあきらめてしまうのではなく、やり方を変えたり、原因を追究したりして再挑戦しています。あきらめてしまえば、そこで研究がストップしてしまうので、いろんな手を尽くして、最終的なゴールに向かっていくことを大事にしています。

研究でうれしかったことは？

自分が開発した手法で、今までとは異なるおもしろい結果が得ることができたとき。単なる手法の紹介にとどまらず、その手法を使って新たにわかったことをいろんな人にアピールすることができ、研究としてひとつ形になったと思えてうれしかったです。

今後の目標は？

研究を通じて学んできたことを社会に還元したい。薬の副作用で苦しんでいる人が多いので、副作用を減らし、治療で苦しまずに病気を治すことができるような薬を作りたいと思います。

教育学部4年

文山 知紗

勉強だけでなく、
いろんな経験をして、
楽しみを
見つけてほしい



教育学研究科へ進学予定

研究者への道を選んだのは？

高校生のころ、不登校や鬱に悩む人が身近にいたことから、いわゆる“心の病氣”を予防することはできないかと思い、研究者の道を意識し始めました。臨床心理士を目指して他大学に進学、卒業した後、臨床心理学をより幅広く研究したいと、京都大学3回生に編入しました。好奇心が旺盛なので、研究者を目指せばより活躍の場が広がるのではないかと考えました。

現在の研究に影響した人やできごとは？

3年ほど前に、京都大学名誉教授・山中康裕先生の『老いの魂学(ソウロロジー)』を読んで、先生の提唱されている「無意識の身体心像」(無意識的に体のことが心像として現れる概念)を知り、「無意識」に興味を持ちました。高校生のときに参加した京大のオープンキャンパスの心理学の模擬授業で受けた、絵画療法の講義も興味深かったです。

今後の目標は？

臨床心理学だけでなく、認知心理学など他の分野とのコラボレーション研究や、学校現場や病院にもかかわりたいです。日本の病院では、臨床心理士が患者さんと接する機会が少ないので、積極的に関わっていききたいし、心の病の予防につながるような研究もやっていきたいと思います。

未来の研究者たちへ 京都大学 女性研究者からの メッセージ

「研究ってどんなもの？」と、
どんどん私たちに聞いてください。
研究の楽しさを知った上で、
人生の選択をしてほしい。



生命科学研究所 准教授
大澤 志津江



教育学研究科 准教授
西岡 加名恵

いろんな人がいて、さまざまな出会いがあって
楽しいので、ぜひ京都大学へ！
教育学部では「そもそも教育とは何か」
ということから考えることができ、
「あたりまえ」の枠が広がります。
教育学部は学生も教員も女性が多いので、
特に女性を意識しなくても大丈夫です。



人間・環境学研究所 准教授
船曳 康子

育児や地域社会に関わっている女性だからこそ
思いつくことがたくさんあります。
妊娠、出産、育児の間、研究が止まるのではなく、
その経験がプラスになります。
キャリアか家庭かの二択ではなくつつあるので、
女性の視点を生かした分野を開拓してほしい。



文学研究科 准教授
平川 佳世

情熱を持って取り組めるものを見つけてほしい。
美術史は感性と論理的な思考力を
結びつける形でできる研究。
生きた外国語を使ったり、
現地調査で修道院や美術館の裏に入れたり、
面白いこともたくさんあったりするので、
ぜひチャレンジしてほしい。

京都大学は、
決められたことをやらされるのではなく、
「自分のやりたいことをどうやるか、を
自分で考えて決めることができる」という大学。

建築環境工学という分野は、
熱や水分、光や音、都市環境や火災など選択肢も広く、
建築の環境に関しては
かなり手厚く指導を受けられます。



工学研究科 助教
伊庭 千恵美

人生の主役は自分です。
好きなように、
思うがままに
生きたいいいのでは？



人文科学研究科 助教
小川 佐和子

何ごと一生懸命やれば
やるほど楽しい。
一生懸命やらないと
見えない楽しさがあります。



理学研究科 准教授
市川(近藤) 温子

大学や研究室を選ぶとき、
割と軽い感じで決めただけですが、
入ってから面白いことが見つかり
今の研究に繋がっています。
「これでなきゃだめ」と絞るのもいいですが、
まずは興味のあるところへ入り、
間口を広くしておいて、
その中で面白いと思ったところを
掘り下げるのもいいと思います。

網羅的に勉強ができなくても、
一点突破でもいいと思います。
早くから世の中に慣れてしまわずに、
自分の興味のあることを
追究していく姿勢が大切。
人類学はある意味で女性向き。
フィールドでは、
女性で得だったなど
思うことの方が多いです。



人文科学研究科 准教授
石井 美保



野生動物研究センター 教授
村山 美穂

大学で研究すると、視野が広がる。
また、常に学外・海外研究者が
行き交っているのが京都大学。
その利点を生かしてほしい。



農学研究科 助教
中谷 加奈



参加すれば、京都大学がより身近に！
京都大学を「見る・知る・体験する」
イベントがいろいろ！



女子高生・車座フォーラム

研究ってどんなこと？ 研究者ってどんな人？



どんな研究分野があるのかといった進学に関わる話から、研究の面白さや苦勞、研究論文や学会発表など研究者の仕事内容、卒業後の将来設計のための心得、さらに研究生生活と子育てや介護との両立方法まで、さまざまなテーマについて、教員や大学院生、学生から直接話を聞くことができます。

12月に開催／女子高校生と保護者対象・参加無料（要申込み）
●京都大学の紹介●入試に関する説明●女性研究者の講演●講師・学生とのグループワーク●入試に関する質疑応答



京都大学の大学院生や博士研究員が「学びコーディネーター」として、高校での将来のキャリア形成などを目的とした授業や、希望生徒を対象にした課外講座などを実施。「出前授業」は学びコーディネーターが高校を訪問し、「オープン授業」は校外学習などで京都大学を訪れる高校生に対して、それぞれの研究成果をわかりやすく高校生に伝えます。

たちばな賞（優秀女性研究者賞）

人文・社会科学または自然科学の分野で、優れた研究成果を挙げた京都大学の若手女性研究者や博士課程学生を、大学として讃える制度。



出前授業・オープン授業

8月～11月に実施／
全国の高校対象・高校の費用負担なし（要申込み）

オープンキャンパス

京都大学を丸ごと体験！

京都大学の教育・研究、学生生活を知り、大学の理念や学風を肌で感じることができるイベント。総長の講演を聞いたり、希望の学部・模範授業に参加したり、研究室に訪問して先生の話の聞いたりすることができます。学生生活や進路相談コーナー、附属図書館・総合博物館などの施設見学、キャンパスツアーなどの企画があります。



夏休みに開催／京都大学受験予定の高校生対象・参加無料

●オープニングセレモニー（総長講演、応援団による演舞、在学生からのメッセージ）●キャンパスツアー（教室や食堂、図書館などの施設）●人気教員による講演会●在学生によるクラブ・サークル紹介●在学生による公開座談会●在校生交流コーナー、相談コーナー●構内施設見学（百周年時計台記念館展示ホール、附属図書館、総合博物館）●各学部企画



アカデミックデイ

秋に開催／一般対象・参加費無料

市民と研究者が学問について語り合うイベントです。大学研究者と高校生による研究紹介のポスター展示「研究者と立ち話」や、テーブルを囲んで研究にまつわる話をするサイエンスカフェ「ちゃぶ台囲んでひざ詰め対話」、テーマに沿って語り合うトークライブ「お茶を片手に座談会」などのプログラムがあります。



大学祭【11月祭】

11月下旬に行われる京都大学の学園祭です。スペシャルライブや講演、研究室企画のほか、京大スタンプラリー、京大ガイドツアー、映画祭典、古本・古レコード市、さらに100店以上の模擬店が出店、特設ステージで行われるライブやイベントなどでにぎわいます。

ジョン万プログラム

（若手人材海外派遣事業）

海外大学での研究や国際共同研究などに参加する若手研究者が、世界で活躍できるグローバル人に育つよう、大学が授業料、滞在費、渡航費を支援するプログラムです。

